

## 学 会 記 事

### § 平成 27 年第 2 回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成 27 年 4 月 24 日（金）  
15 時 00 分～19 時 00 分

場 所：タワーホール船堀 401 号室

#### 出席者

理事長：井上登美夫

理 事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，  
内山眞幸，絹谷清剛，汲田伸一郎，  
小泉 潔，佐賀恒夫，阪原晴海，  
佐々木雅之，千田道雄，玉木長良，  
外山 宏，中川原譲二，橋本禎介，  
畑澤 順，藤井博史，細野 眞，  
間賀田泰寛，松田博史，望月輝一

監 事：田代 学，戸川貴史

書 記：中本裕士

事務局：神田正子

#### 欠席者

理 事：近森大志郎，渡邊 浩

#### 議 題

##### I. 審議事項

1. 平成 27 年評議員選挙結果報告・推薦評議員の推薦 (1) (井上登美夫理事長)  
評議員選挙は、選挙有権者数 3,096 名、投票総数 1,281 票 (41.38%)、有効得票数 1,267 票であった。  
定款細則 25 条に基づき 160 名を選出して、承認された。  
推薦評議員として 19 名を選出して承認された。
2. アジア研究奨励賞 (2) (玉木長良理事)  
5 名の応募があり、韓国の Yong-il Kim (JNM に

掲載) と Hai-Jeon Yoon (ENMMI に掲載) の 2 人に決定した。

3. 「分子イメージング臨床研究に用いる PET 薬剤についての基準」の追補 2 (改訂案)  
(3) (千田道雄理事)

「ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針」(2015 年 4 月 1 日施行) に基づき、「分子イメージング臨床研究に用いる PET 薬剤についての基準の追補 2」を矛盾しないように改訂、会員に周知することにした。

「軽微な侵襲」の解釈は、当面各施設の判断にまかせることにする。

4. EANM との覚書案 (4) (千田道雄理事)

SNM との覚書に準じて原案を作成したところ、EANM から修正案が送付されてきた。問題なければ 6 月の SNMMI のときに調印式を開催する。覚え書きの内容については承認した。

5. 核医学，PET 分野アウトリーチ (Reach Out) 活動へのご提案

(絹谷清剛理事，細野眞理事)

日本核医学会から出されている患者向けの案内(核医学検査 Q&A と PET 検査 Q&A) をメディカルノートにて web 配信してよいかという問い合わせあり。核医学を広く国民に周知させるにはいい機会と考えられるので承認した。

6. 最新の国内実態調査結果に基づく診断参考レベルの設定 (案) (21) (石井一成理事)

承認。承認されたことを J-RIME に報告する。

12 学会の承認が順調に得られれば、6 月 7 日頃に承認を得た学会名をだして正式公表する予定。

## 7. 将来計画・経営戦略委員会

(23) (外山宏理事)

日本核医学会総会の演題発表は、会員であるという前提がある。非会員の共同演者を削除すると演題が減ってしまう懸念があり、また厳しく対処しようとする作業が大変になる可能性がある。非会員の共同演者は3,000円で発表可とする案が委員会から提出された。払わない人に対しても本人ではなく筆頭演者に一括して請求する案が出された。

「演者はみな会員」ではなく、「筆頭演者は会員であること」と変更してはどうかという案もあった。

今回の理事会では結論に到達せず、引き続きの審議事項となった。来年の名古屋の学術総会の応募までに何らかの新しい取り決めを行うことを念頭に置く。

薬事承認を得た核医学のソフトウェアを使う場合は、診療報酬の算定要件に加味することを考慮してはどうか。またガイドラインを作成する場合に「常勤あるいは非常勤の核医学専門医（の配置）」と「解析する診療放射線技師に対する教育に核医学専門技師を活用すること」を記載するようにしてはどうか。

当局が学会に作成するようと言われる可能性がある。

## 8. その他

## II. 報告事項

### 1 第55回学術総会準備状況報告

(5) (小泉潔会長)

招待講演のWerner先生はシンポジウムにてkey note lectureで講演する予定。

### 2. 第56回学術総会準備状況報告

(伊藤健吾次期会長)

### 3. 第57回学術総会準備状況報告

(6) (井上登美夫次々期会長)

第12回アジア・オセアニア核医学会の共同主催を内閣府日本学術会議事務局に申請していたところ、共同主催国際会議候補に決定したとの通知が得られた。何らかの補助が期待される。

### 4. 第15・16回春季大会状況報告

(7) (井上登美夫大会長)

3/16までに1,020人の登録があったことが報告された。

来年は大阪（大阪国際交流センターとたかつガーデン）で開催する。大会長は次期理事長が就任する。

### 5. 会計報告 (8) (阪原晴海理事)

- ・平成27年度より3年間、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化(A)」の交付が内定したとの報告があった。
- ・平成27年度月次正味財産増減計画書に基づき、3月までの収入、支出について説明があった。
- ・会計担当理事から各理事に次年度の予算申請書の提出依頼があった。

### 6. 委員会報告

#### 1) 編集委員会 (9) (絹谷清剛理事)

- ・久田賞は3人を承認した。
- ・和文誌の核医学を論文とニュースの発信に分ける。和文の良いところは残しながら経費を節約する。J-stageは核医学の発信においてメリットが大きいため→承認した。
- ・ANM審査状況。症例報告は採択を絞っている。論文カテゴリーの整備として、Short communicationはOriginal articleに合体させた。Case reportに関しては、基準に関して厳しい文言に改訂した。
- ・統計エディタおよび言語エディタの名前を別項目として編集委員会メンバーとして表記するよう修正した。英文校正業務委託契約を正

式に行った。

科研費交付に関してヒアリングがあるが、設定した目標はクリアしている。

完全オープン化するとリスクもあるので、科研費で補助を出しながら一部の論文をオープンアクセス可能とする方針。

Springer からロイヤルティー収入が約 100 万円あった。

## 2) 教育・専門医審査委員会 (望月輝一理事)

6/28 (日) 専門医試験 80 名以下ならアイントロップ協会, 80 人を超えれば日本教育会館にて開催予定。

専門医機構 18+1 (総合診療科) につづいて、専門医をどうするか、今後進んでいく可能性あり。

横断的 subspeciality は夏以降に進捗が期待される。

審査はかなり厳しくなることが予想される。厳しい研修システムが必須となる可能性大。

## 3) PET 核医学委員会 (10) (細野眞理事)

今年 11 月の学術総会時に PET 核医学ワークショップを開催予定。

アミロイド PET 読影講習会についての受講資格の問い合わせが多い。情報が得られる Web サイトを作ることを検討する。費用、手間がかかるため、予算化が必要と考えられる。広報委員会と相談して案を決める。

アミロイド PET 保険診療の適用要件として読影医の講習の受講は必須となるであろう。受講資格は責任企業のトレーニングを受けていること、核医学専門医もしくは PET 核医学認定医であること、講習の修了証は学会名で出す。

## 4) 健保委員会 (11) (伊藤健吾理事)

・「アミロイド PET イメージング剤合成装置の適正使用ガイドライン」

厚労省医療課を訪問し、アミロイドイメージングのガイドラインについて意見交換を行っ

た。アミロイドイメージングの保険収載を考える場合には、臨床現場でアミロイドイメージングを用いた際に、どのくらいの医療効果および医療経済効果が得られるのかを明らかにする必要がある。

今回のガイドラインは保険診療を前提としたガイドラインとは位置づけられていない。将来的に保険収載となった場合には、ガイドラインを改訂していく必要が生じるであろう。

検査依頼の適正化について、「認知症関連学会による所定の研修を終了する必要がある」としているのは、高いハードルを課すことになるが、高いハードルを課さないと認められないという前提がある。認知症におけるアミロイドイメージングは一般医が気軽に依頼する検査ではなく、専門医が精査の後必要と考えた場合に依頼すべき検査と位置づけられる。

臨床使用の適正化について、脳血流 SPECT がないのは、そもそも認知症のガイドラインにおいて必須の検査としては位置づけられていないため。

→「アミロイド PET イメージング剤合成装置の適正使用ガイドライン」は本理事会にて承認された。

・ダイアモックスの適応外使用に関する新しい情報は無い。

・ Alzheimer's Association と American College of Radiology が合同で行う、IDEAS study が 4 年間の予定で始まる。ここで行われる検査については保険償還あり。本 Study の目的はアミロイドイメージングの医療効果と医療経済効果を調査すること。FDG-PET のときの National oncologic PET registry (NOPR) と似たようなもの。

・選定療養 (保険外併用療養費制度) に関する提案・意見募集がある。何か意見があれば健保委員会委員長に連絡する。

5) 広報委員会 (12) (内山眞幸理事)

6) リスクマネジメント委員会 (中川原譲二理事)  
前回理事会より特にリスクに関する問題提起なし。

7) 放射線防護委員会 (石井一成理事)  
日本医学放射線学会学術総会時に J-RIME の会合があった。

① PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (13) (千田道雄理事)  
2000 年に出た通知による現場の混乱があった。  
注 1 が排気口にはついていないため、混乱している。明らかな誤植と考えられる。これまでは担当官によって認められてきたが、今後は減衰が認められなくなった。O-15 ガスは減衰が大きい。  
さしあたっての対応策は、① 日数を減らして乗り切る、② 検査をやめる、③ 夜も換気することにする (8 時間→24 時間)。

学会から行政の間違いを指摘すると、飛散率を見直されるなどして規制が強化され、やりにくくなる可能性がある。しかし黙っているのは状況が悪化するのみで、学術的な根拠に基づいて学会として対応すべきではないか。問題を抱えているのは 1/3-1/2 の施設。指摘されるのは変更申請を出したときか立ち入り検査のとき。対応策をしっかりと考えてから対処すべき。井上理事長より、学会として対応する、と発言があった。

8) 利益相反審査委員会・倫理委員会 (22) (藤井博史理事)  
“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”に関して、核医学検査の侵襲性について

は、当面、各施設の倫理審査委員会の判断に任せるが、「軽微な侵襲」について情報収集は進める。

日本医学会の“医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン”が改訂され、  
スポンサー→資金提供者 と用語が変更された。

第 3 者から疑義を指摘されたら説明責任が発生することが明記された。

第 3 者から疑義を指摘されたら説明責任が発生することが明記された。今後、COI 申告の対象者が拡大される可能性がある (ガイドライン作成担当者、論文査読者、など)。

9) 各賞選考委員会 (14) (玉木長良理事)  
今後、日本核医学会核医学奨励賞、日本核医学会賞、リターニー賞の募集を行い、8 月の理事会で決定する。

10) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (14) (間賀田泰寛理事)  
日本病院薬剤師会ブロック大会等の薬剤師関連学会・集会等にて放射性医薬品に関する教育的な講演会等を検討中。

11) 分子イメージング戦略会議 (15) (千田道雄理事)  
「放射性不純物検出感度を総放射能の 0.3%」をメチオニンも適用。

理解を促すための解説書を作成予定。

ホームページでは、PDF で作成された資料はそのまま出せるが、Word ファイルは形式が崩れるのでダウンロードが必要となり、なるべく避ける。

① 早期探索 5 拠点 PET 連絡協議会 (畑澤順理事)  
今年度が最終。

12) 小児核医学検査適正施行委員会  
(小泉潔理事)

成人の DRL が発表されたので小児用にも利用できないか。

13) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

Ra-223 承認申請を提出した。

Y-90 サータックスが活動中。

加速器で治療用の RI を作るプロジェクトを統合的に進めていくことが望ましい。

14) 将来計画・経営戦略委員会 (外山宏理事)

核医学専門技術セミナーでアンケートを配布する。受講者に関する情報が得られる可能性がある。

薬剤師の会員について、会費以外に何らかのメリットを見いだしてもらえるような方策を検討する。

看護師が日本核医学会に入会しやすい方法はないか検討された。今年度の学術総会の看護師の参加費は安く設定した。

一般会員は全会員の 21.5%。雑誌を届けずに会費 1 万円以下にならないか。ANM がほしい人はオプションとする。職種で分けるよりは会員の内容で分ける？

診療放射線技師は現状で、新たに看護師会員、薬剤師会員を作ってみて将来的に見直す。診療放射線技師が離れることの歯止めにならない。薬剤師会員は時間的猶予がある。

認定看護師制度を作るために、まずは看護師会員を作る方向で進めていくことが承認された。

専門医機構の今後の取り決めしだいでは、医師が学会員であるメリットもなくなるかもしれない。

15) 予算委員会 (井上登美夫理事長)

次年度の活動を考えて予算案を作成する。

16) 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会

(飯田秀博理事)

医療機器ソフトの法規制が開始された。申請様式の提示などが遅れたが、申請された分については審査が開始されている。最初の認証は 6-7 月頃の見込み。承認については早くも 8 月か。

3 年後に予定されるライフサイクル規制 (IEC62304) により、欧米なみの基準となる見込み。ライフサイクル規制とは、安心して医療に利用できるための重要な基準であるが、提供企業にとっては重要な責任が明確になる。さらに医学的バリデーションの規定 (IEC82304) についても議論されている。

医療機器として承認・認証を受けたソフトを無償提供することに違法性はないとのこと。一方、ワークステーションに搭載したソフトの維持管理、変更、機能追加などについて、本来行うべき手順がおろそかになっている可能性がある。近く QA などて案内が出てくる可能性がある。

厚生労働省研究事業『医療機器に関する単体プログラムの薬事規制のあり方に関する研究』において、規制当局との情報交換を行いつつ、学会への情報発信に努める。

第 55 回日本核医学会学術総会 (2015 年 11 月 5~7 日) において、ソフトの規制の目的と実際および今後の動向について紹介するとともに、学会としての対応を議論するシンポジウムが計画されている。

7. ワーキンググループ (松田博史理事)

新規活動を募集する予定である。

8. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

明日開催する。特別講演に呼吸器外科の先生の話。MIBG 治療を先進医療で行うという方向

である。

内照射治療の際のヨード制限に関して統一した見解を作成する方針である。

- 2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)
- 3) 日本心臓核医学会 (近森大志郎理事)  
今年は 6/26, 27 に開催する。
- 4) 呼吸器核医学研究会 (16) (内山眞幸理事)
- 5) PET 核医学分科会 (細野眞理事)  
PET サマーセミナーが 9/4-6 に東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾートにて開催する。連休明けに web 登録がオープンする。
9. 国外学会等連携
  - 1) 世界核医学会 (絹谷清剛理事)  
2022 年世界核医学会招致委員会  
SNMMI (ボルティモア) で 6/8 (月) に Nippon night を開催予定。
  - 2) 米国核医学会 (玉木長良理事)  
SNMMI の折に先方の事務局との会合をもつ。  
次年度の Educational Lecture の企画を予定する。
  - 3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)  
(千田道雄理事)
  - 4) アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務)  
(17) (外山宏理事)  
日中核医学交流会  
11 月の日本核医学会学術総会にて「感謝の旅」という謝恩会を開催予定。  
日中核医学交流会が活発になってきているのでこの流れでより盛り上げたい。

10. 理事長報告 (井上登美夫理事長)

11. その他

- 1) 日本放射性医薬品協会との情報交換会  
(18) (畑澤順理事)  
Ga-68, Tl-201, Mo/Tc テクネウルトラカウを検定日前に供給することをなくす。DRL に影響を与える可能性もある。2016 年 12 月をめぐりにキセノンガスが停止される予定。
- 2) 核医学専門技師認定機構の活動報告  
(19) (小泉潔理事)  
理事長が交代した。年間活動状況が報告された。
- 3) 専門看護師教育 (20) (井上登美夫理事長)  
「放射線看護分野教育課程の特定」について条件付き認定となったためお礼状が届いた。

### Ⅲ. 確認事項

1. 前回議事録 (案) (24)